



ほっとステイたてしな

生徒たちは、農村生活の体験から自然との出会い、人と人とのふれあいを経験し、たくましく成長していきます。そんな手助けが少しでも出来ればと受入家庭のみなさんは、四季折々の“たてしな”の良さを伝えています。

ほっとステイたてしなでの出会い

牛鹿 両角正彦

「ほっとステイたてしな」事業でこれまで我が家に訪れてくれたのは、多くは都会地の中学校生徒ですが小学校や高等学校の生徒もありました。また、中国（大陸、台湾）から修学旅行の高校生などの来訪もありました。訪れる名目は農村体験、移動教室、林間学習、修学旅行等いろいろです。

私もがこの事業に参加したきっかけは、ほっとステイたてしなのスタッフの一人が以前に大変お世話になった方がいて、彼から「協力しろよ…」と言われ、断ることができなかったためでした。我が家にも同年代の子どもが2人います。田舎の中学生が都会地の生の中学生を見聞き出来るのも面白かろうと思いました。そんな無責任な引き受けで始めました。

いつものパターンは、研修生？が到着家に案内してはじめてのミーティング。自己紹介を兼ねて我が家の農村的生活状況の話。事前学習で描いていた農村のイメージとバスから降りて肌で感じた今の相違を確認してもらう。当日の体験項目

や関係あることの説明をします。私はわずかな米と果樹（リンゴ）仕事、趣味的には味噌作りくらいしかしていませんの

で来訪者のタイピングでは田植えの見学、リンゴの摘果や葉摘み、豆蒔き、味噌の仕込み等です。

現在、田植えは機械で行い苗を手で植えることは殆どないことを話します。摘果や葉摘みは機械ではできないことを知ってもらいます。

終わりのミーティングでは事前学習と到着直後と短時間でも体験した農村的生活の感じの相違を記憶しておいてくださいとお願いしています。そしてこんな言い訳を毎度しています。私は専業農家ではありません。もし専業農家で独りで仕事をしているとすれば皆さんと付き合っている時間的余裕はなかったでしょう、本当の農業はもっときびしいものです。

趣味の園芸や観光農園でもいいのですが、専業農家で生活できる農村でありたいです。と。

「ほっとステイたてしな」で私が体験したことは下手な作文ではとても表現できません。体験学習をさせてもらっているのは逆にこちらなのかも知れません。